



ずししかんきょうかいぎ ニュース

2024年2月号

ずしし環境会議は逗子市が掲げる環境基本計画の行動等指針にもとづき自然・景観において逗子市の環境への働きかけ、まちなみと緑の創造部会、ゴミ問題部会、二酸化炭素削減部会の3つの部会に分かれて活動しています。

令和5年の主な活動記録

2/4 かんきょう講演会「演題：海の中から地球を考える ～プロダイバーが伝える気候危機～」

3/25・26 逗子トモイク：逗子の昆虫500展等、環境啓発パネル展示、ソーラーパワーと電車で競争等体験

6/10・11 ずしグリフェス：逗子の昆虫500展等、環境啓発パネル展示、ソーラーパワーと電車で競争等体験

10/22 市民まつり：各部会の環境啓発パネルを展示、じゅじゅ玉のマラカス作り、ソーラーパワーと電車で競争、逗子市の姿～今・昔～、スタンプラリー、例年以上の来客があり盛況でした。

◇◇◇かんきょう講演会のお知らせ◇◇◇

令和5年度かんきょう講演会

主催：逗子市、ずしし環境会議



近年、日本では台風や線状降水帯による豪雨など

気象災害の激甚化が問題となっています。

温暖化の影響が指摘されていますが、何が起きているのでしょうか？

エルニーニョ現象という言葉もよく耳にしますがどう関係するのでしょうか？

これらの問題に対する研究者の活動を「海の役割」の重要性に触れながら紹介します。

そして、もう一つ、その研究の推進に必要な、本講演会に参加されている皆さんに

期待されている役割についてもお伝えします。

2月10日(土) 午後2時～4時(開場1時30分)



市民交流センター 第2・3会議室

講師：米山 邦夫(よねやまくにお)博士

国立研究開発法人海洋研究開発機構 地球環境部門

現場主義を貫き、20年以上に渡りインド洋や太平洋の熱帯域に船でかけ、観測を行ってきた。近年はインドネシアやフィリピンなど熱帯島嶼域を舞台にした国際プロジェクトを推進。そして現在は国連の専門機関の1つである世界気象機関の科学運営委員会のメンバーとして、地球規模で行う活動の計画立案に携わっている。

【参加方法】

申込は不要です 直接会場までお越しください

※託児、手話通訳・要約筆記希望者は1月19日(金)までに

逗子市環境都市課までお申し込みください

【問合せ】

逗子市環境都市課 TEL:046-873-1111(内線456)

ずしし環境会議二酸化炭素削減部会

Email: satoshi.tsukioka@gmail.com



かんきょう講演会 検索

2/14Youtube に掲載予定です



まちなみと緑の創造部会 ニュース

当部会では、「逗子の自然環境を次世代にどのように伝えるか」をテーマとして活動を続けています。

◇◇◇辰にちなんだ植物◇◇◇

年が明け、あっという間に2月の節分も過ぎたところで、暦の上ではまさに春になりました。また、2月は旧暦のお正月にあたり、今年は、辰（龍）年です。

そこで、身近で目にすることが出来る「リュウ」の名前が付いた植物を紹介します。



リュウノヒゲ

リュウノヒゲ：

キジカクシ科ジャノヒゲ属の高さ20cmほどの地被類です。よくご家庭のお庭や寺社、公園等で植栽地の根締めとして目にすることが出来ます。日陰に強く、1年中濃い緑色をした常緑の植物です。葉が立派すぎて、そこにしか印象がない植物なので、姿はご存じの方も多いと思いますが、意外なのは、実はれっきとしたお花と実をつけることです。初夏に小さな白い花をつけ、その後青紫色の小さな実を付けます。丈夫で育てやすく、雑草を抑制する目的でも、植えられることがあります。踏みつけには弱いので、花壇や低木の周りに植えることが多いです。



タマリユ

タマリユ：

リュウノヒゲと同じキジカクシ科ジャノヒゲ属で、リュウノヒゲの園芸品種です。高さは10cmほどなので、リュウノヒゲの存在感がちょっと、という場合に、使います。比較的小ぶりの花壇によく使われています。

リュウゼツラン：

キジカクシ科（旧リュウゼツラン科）リュウゼツラン属の高さ100cmにもなる大型の多肉植物です。世界で約300種類が確認されているとか。見た目はアロエやユッカ、サボテンを彷彿させ、日当たりが強い南国をイメージすることからか、家屋の色合いと合わせたお庭のデザインを形づくる材料としても使われ、逗子でも目にすることが出来ます。お花は、数十年に一度しか咲かないことと、お酒のテキーラを作る材料としてご存じの方も、多いかもしれませんね。

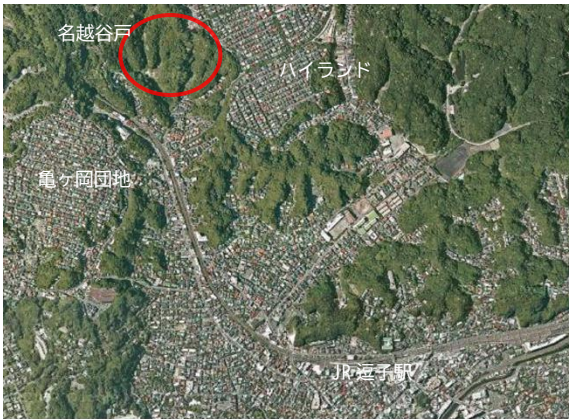


リュウゼツラン

まだまだ、他にも「リュウ」や「タツ」が付いた植物はあります。皆さんも探してみたいかでしょうか。

皆さんにとって、素晴らしいことが龍のようにぐんぐん増えていく一年でありますように。

◇◇◇名越谷戸で、豆子で一番大きいビオトープづくり◇◇◇



名越谷戸にこれまで作ったビオトープを広げて、2024年から豆子最大のビオトープづくりを始めます。

10年前から続けているビオトープ作業では湿地の一部に池や水路を作り、トンボやカエルが産卵に集まるようになりました。周囲の草刈りや、水路の浚渫などの維持管理作業を継続しているので湿地の植物が広がり、野鳥や昆虫などの小動物も集まっています。

それでもまだ昔の田んぼだった区域の半分程度しか湿地化していないため、乾燥地の植物が茂り易い状況です。

会としては、より多くの生き物が生息できるように、かつて田んぼだった区域をできるだけ湿地復元して環境を整えることを目標にしてきました。経緯を振り返りながら、今後目指すことを紹介します。



名越湿地の過去

豆子鎌倉ハイランドと亀ヶ岡の二つの住宅団地の間にある、名越切通し近くの名越谷戸を、住宅団地にする計画が昭和50年ごろにありました。開発業者が用地買収しましたが、住民の反対運動で開発業者が開発を断念し、用地を豆子市に譲り渡したので、市は緑地に指定しました。

その後10年近く放置され、もともと田んぼだったところに瓦礫や土砂が不法投棄されてきたので、大型の外来種植物などが繁茂して荒地になっていました。

昔から豆子に普通にあった田んぼや原っぱの環境を取り戻すために、平成14年からまちなみと緑の創造部会で、瓦礫の掘り起こしや荒地の開墾を始めました。

平成17年に、ずしし環境会議まちなみと緑の創造部会、虹の会、三浦竹友の会、名越谷戸調査会などが集まって「名越緑地里山の会」を設立しました。この会は、「昔からの豆子の自然の保全」と、「自然を生かした学びの場としての活用」の二つを目的とする里山復元計画を進めることを、豆子市とアドプト契約して、市の支援を受けながら活動を始めました。



これから名越谷戸のビオトープづくりのめざすこと

これまでをふり返ると平成14年からの10年間の第1期は、瓦礫の片付けなど、荒地の植生を開墾する作業に追われた期間でした。

平成23年からの10年間余りの第2期には、セイタカアワダチソウの除去など

ビオトープとは

水辺には、植物、魚などの水生生物、昆虫・野鳥などの小動物などの、多様な生き物が集まるので、水路や池などを作ることで、自然生態系の関わり合いを身近に観察し、学びつくしむことができます。特に雨の水が流れ集まる流域の仕組みと一体的な地域では、自然環境と生態系の関わり合いが観察しやすくなります。

こうした環境を人工的に作り上げたものをビオトープと言います。

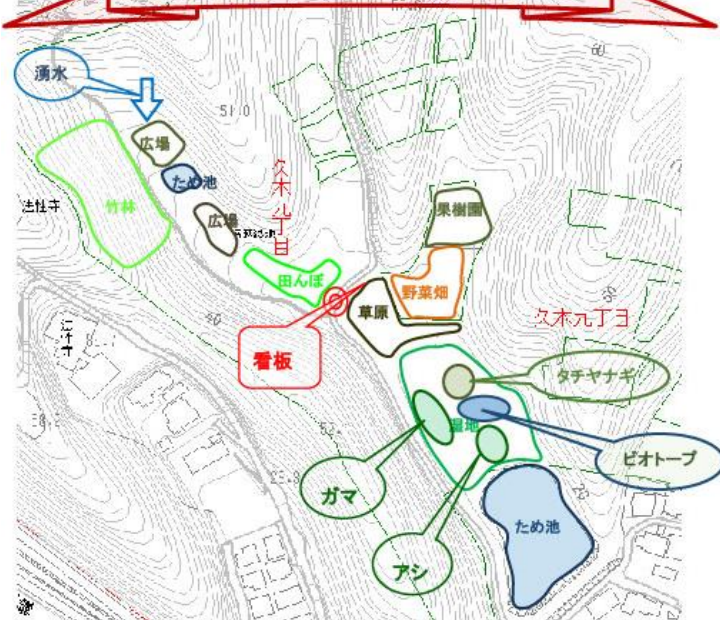


の作業とともにビオトープとして水路や池を試行的に作ってきたといえます。

令和6年からは第3期として位置づけて、たくさんの多様な生き物が集まり生息する、逗子最大のビオトープを作りたいと考えています。



名越緑地里山活動案内図



瓦礫が堆積しているため、これまで湿地化できた範囲は限られていますが、できるだけ広くビオトープを増やして、興味のある市民の方々にも参加していただき、昔から逗子で見られた生き物を観察したり、散歩したり、お子さんたちとゆっくりと過ごして楽しんでいただける谷戸を実現したいと思います。



皆さんも、名越谷戸のビオトープで、散歩したり、自然の観察をしたり、自然の中で子供たちと遊んだり、たまには自然環境を整える活動を少しだけ手伝ってもみながら、昔から普通に逗子にある身近な自然と付き合ってみませんか？

ごみ問題部会

ごみ問題部会は、ゴミの減量化・資源化をテーマに活動しています。

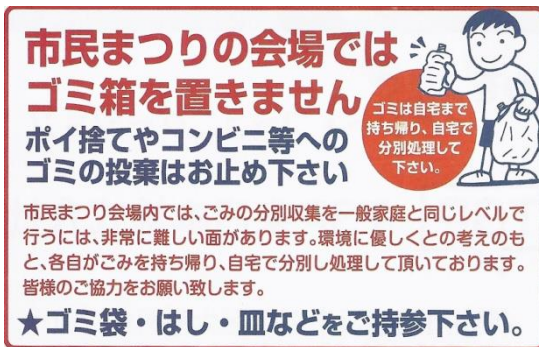
市民まつり

ついにごみゼロを達成!!

ごみ箱を置かない、ごみゼロのまつりを目指して十余年。

ようやく昨年(2023年10月22日)達成することができました。

まつり毎に市民のみなさんに配布するチラシの右下には必ず



を掲載しました。

まつり当日は各参加組織で一人ずつクリーン作業員を決めていただき、会場のごみ拾いをしてもらいました。

毎年お手伝いして下さる聖和学院の生徒さんには、ごみ袋をわたしながら、ごみの持ち帰りをお願いしてもらいました。

そのおかげで会場内には、ほとんどごみは、みうけられない年が何年も続きましたが、まつりが終わったあと、本部に集められた、ごみの山は数十Kgを越える年が何年も続きました。

ところが今回(2023年)のまつりでは、ごみを拾う人もおらず、ごみ袋を手渡しする人もおらず、会場3か所に、ごみ袋を置いただけで、聖和の生徒にも

あえて配らないようお願いしました。

それなのに会場内には、一日中ごみは見あたりませんでしたし、終わったあと、私は会場を一周しましたが、ほとんどごみはみあたりませんでした。

本部にも残ったごみはスタッフの弁当箱や飲み物の空があるのみでした。

来場なさった方がすべて自分のごみは持ち帰って下さったのです。

当日の来場者は2万人と発表されていますので、その方々が自分のごみは自分で処理して下さったということです。

何という感動でしょう。胸がいっぱいになりました。発想して十年余にして達成できた喜びでした。

さっそく天国の松本真知子さんに報告しました。

そういえば昨年7月15日、16日の亀岡八幡宮の夏まつりでも、例年市役所のまわりの道路はごみ拾いのため何周もしていたのですが、昨年は、ほとんど、ごみはありませんでした。

同時開催の延命寺のまつりでも同様で、空のごみ袋をもって帰途に着きました。市民みんなの意識の向上、本当にうれしいかぎりです。





二酸化炭素削減部会 ニュース

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の削減のための活動を続けています。

◇◇2023年9月～2023年12月の主な活動◇◇

1. 出前授業

(1) 中学校向出前授業

- ・ 2023/12/13 に沼間中学校の3年生に実施しました。
- ・ 今後の予定
逗子中：2年生対象で、2024/1/11 に実施予定
久木中：3年生対象で、2024/2/29-3/1 に実施予定

(2) 小学校向け出前授業

- ・ 2023/9/13 に逗子小学校、2023/11/21 に池子小学校でそれぞれ5年生を対象に実施しました。
- ・ 池子小学校では、県の環境課から見学に来られ好評価を頂きました。
- ・ 残念ながら他の小学校とはスケジュールの調整などがつかず実施できませんでした。

2. 地球温暖化防止啓蒙活動

(1) 2023/10/22 ずし市民祭り

- ・ 行政テントへ「ソーラーパワーと電車で競争」とパネル展示をし、盛況でした。
- ・ 来られた方々へ節電の参考として、省エネチェックシートを約50枚配布しました。

◇◇世界の平均気温上昇1.5℃まであと何年？◇◇

地球温暖化対策は、2015年にパリ協定が結ばれ、産業革命以後の温度上昇を1.5℃以下にしようと世界中で対策が実施されつつあります。しかしながら、産業革命以来の世界の平均気温上昇は約1.1℃を越え、すでに緊急事態に入っています。それでは、1.5℃上昇まであと何年くらいか？ 昨年公開されたIPCCの第6次評価報告書に基づいて計算してみました*1。

IPCCのシミュレーション結果から、世界のCO₂濃度が450ppmを越えると世界の平均気温上昇が1.5～2.0℃になると言われています。図-1は1984年から2019年までの世界のCO₂濃度の変化グラフです。このグラフから、50ppm上昇するのに25～30年掛かっていると読めます。従い、このまま進むと2040年までには450ppmを越えそうです。

図-2は、1990～2019年の温室効果ガスの排出量の推移を示しています。CO₂排出量は、産業革命以来上昇を続け、現在も増え続けているのが現実です。

一方、図-3はIPCCが作成した「累積CO₂排出量」vs「平均気温上昇」で過去のデータと将来予測を示しています。この図から、1850-1900年からの累積CO₂排出量が約2.9兆トンで平均気温上昇が1.5℃になると読めます。また、2019年現在、累積CO₂排出量は約2.4兆トンとなっています。

図-2に温室効果ガスの2019年の内訳が示されていますが、CO₂排出量は約450億トン(0.045兆トン)となっています。これらのデータを取りまとめると下記の通りとなります。図4を参照下さい。

- ① 累積CO₂排出量が約2.9兆トンを超えると平均気温が1.5℃を超える
- ② 2019年までの累積CO₂排出量は約2.4兆トン
- ③ 2019年現在で、許される残りのCO₂排出量は約0.5兆トン。これをカーボンバジェットと呼んでいます。
- ④ 2019年のCO₂排出量(約0.045兆トン)のまま排出を続けると2019年から約11年で2.9兆トンに達します。

ということは、2030年頃までに、世界の平均気温は産業革命以来1.5℃上昇します。

図-5はIPCCの作成した気温上昇のシミュレーション結果ですが、2030年前後には、気温上昇が1.5℃に達すると予想されています。そして、2030年ごろまでに対策がうまくいって、図-5の一番下のカーブ(SSP1-1.9)に乗っていればその後も1.5℃以下が維持されるという予測となっています。対策が不十分で一番上のカーブ(SSP5-8.5)に乗っていたら2100年までにあと

3. 7°C上昇するという悲劇的なことになります。

産業革命以来の気温上昇を 1.5°C 以下に抑えられる否かは、これから 2030 年までの 6 年間に何をして・何ができ(目標: CO₂ 排出量を 2019 年から 48%減)、さらに 2050 年までにカーボンニュートラルが達成できるかに掛かっているのです。

気温上昇を 1.5°C 以下にするための温室効果ガスや CO₂ の IPCC 削減シナリオは、2022/10 月号の記事を参照下さい。

皆さんの行動変容や賢い選択が、気温上昇 1.5°C 以下を達成できるか否かの要です。

注*1 IPCC の第 6 次評価報告書が 2019 年現在で作成されていますので、2019 年からあと何年というベースで検討しました。

注*2 各図は IPCC 評価報告書、気象庁 HP、JCCA 作成資料、環境省の旧コミュニケータ用資料より作成しました。詳細は参考資料にてご確認下さい。

図-1 世界の CO₂ 平均濃度 (1984~2019 年)

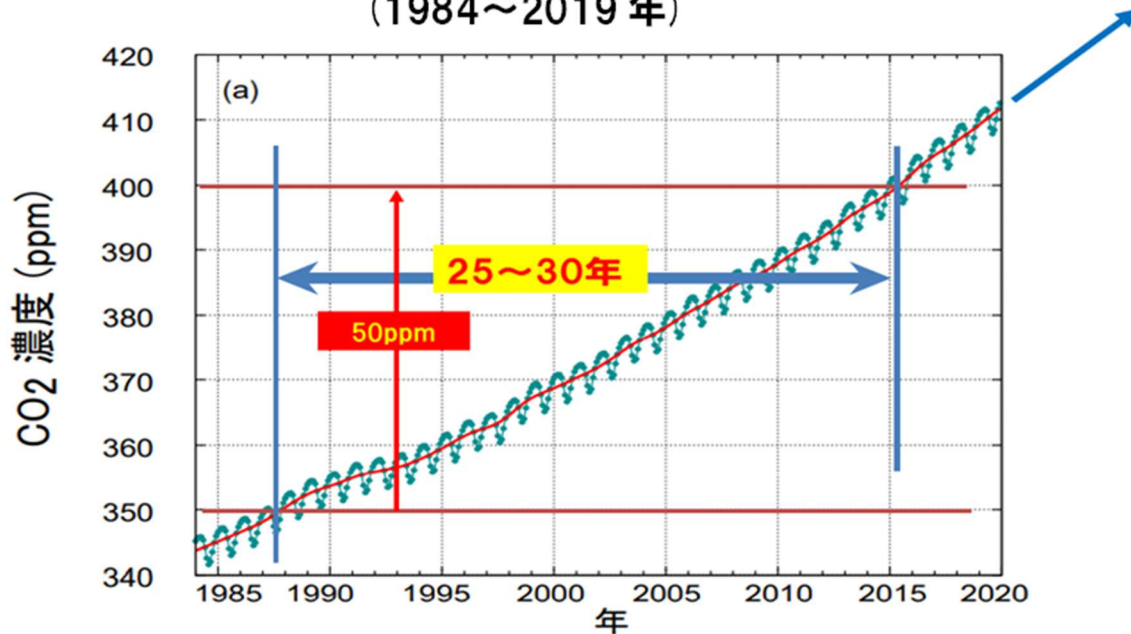
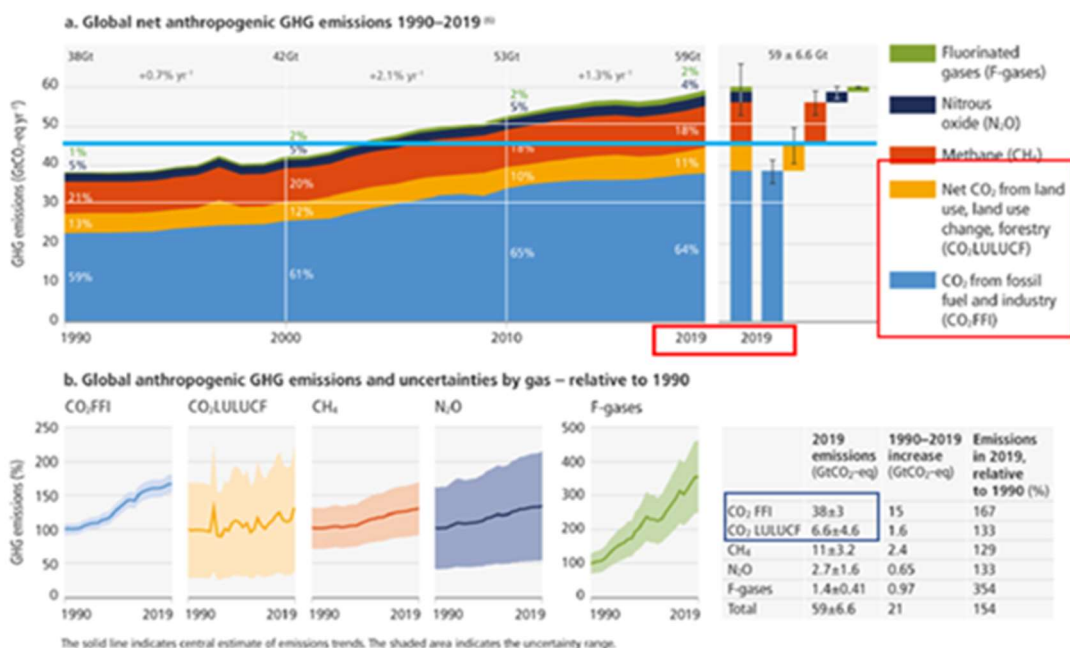


図-2 温室効果ガスの推移(1990年~2019年)
第6次報告書 WG3



IPCC AR6より

図-3 累積 CO2 排出量と平均気温上昇

Global surface temperature increase since 1850-1900 (°C) as a function of cumulative CO₂ emissions (GtCO₂)

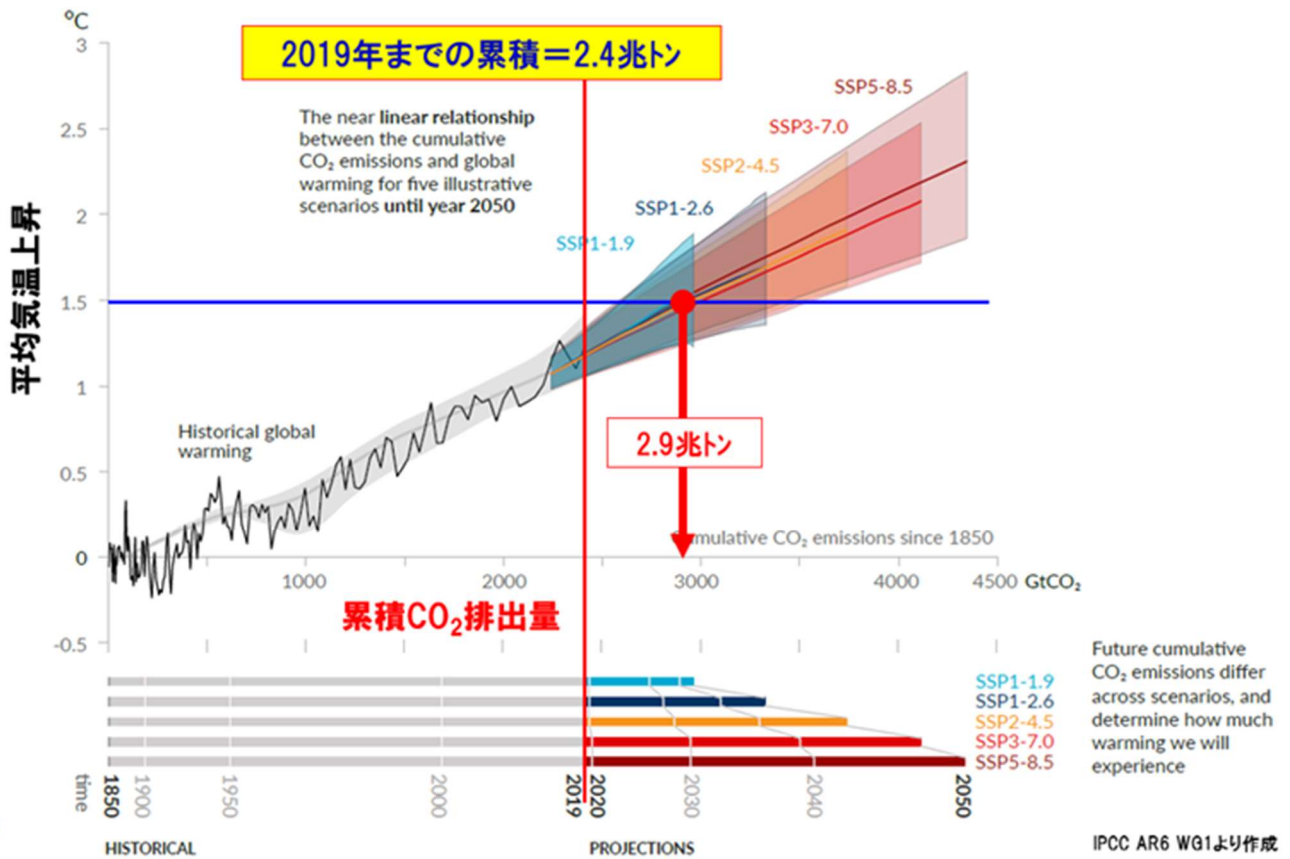
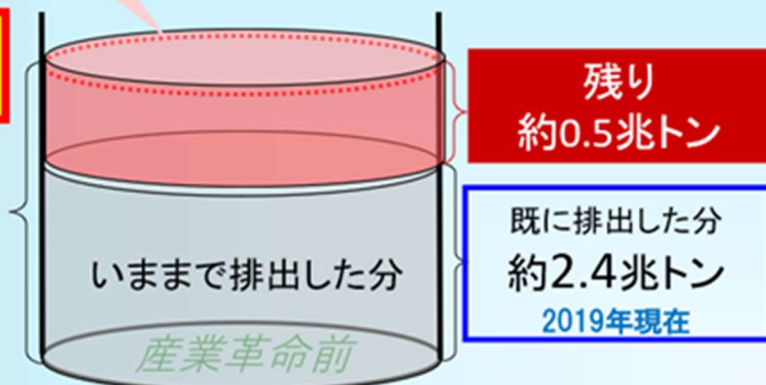


図-4 1.5°C上昇までに残されているCO₂総排出量
1.5°C上昇まであと何年？

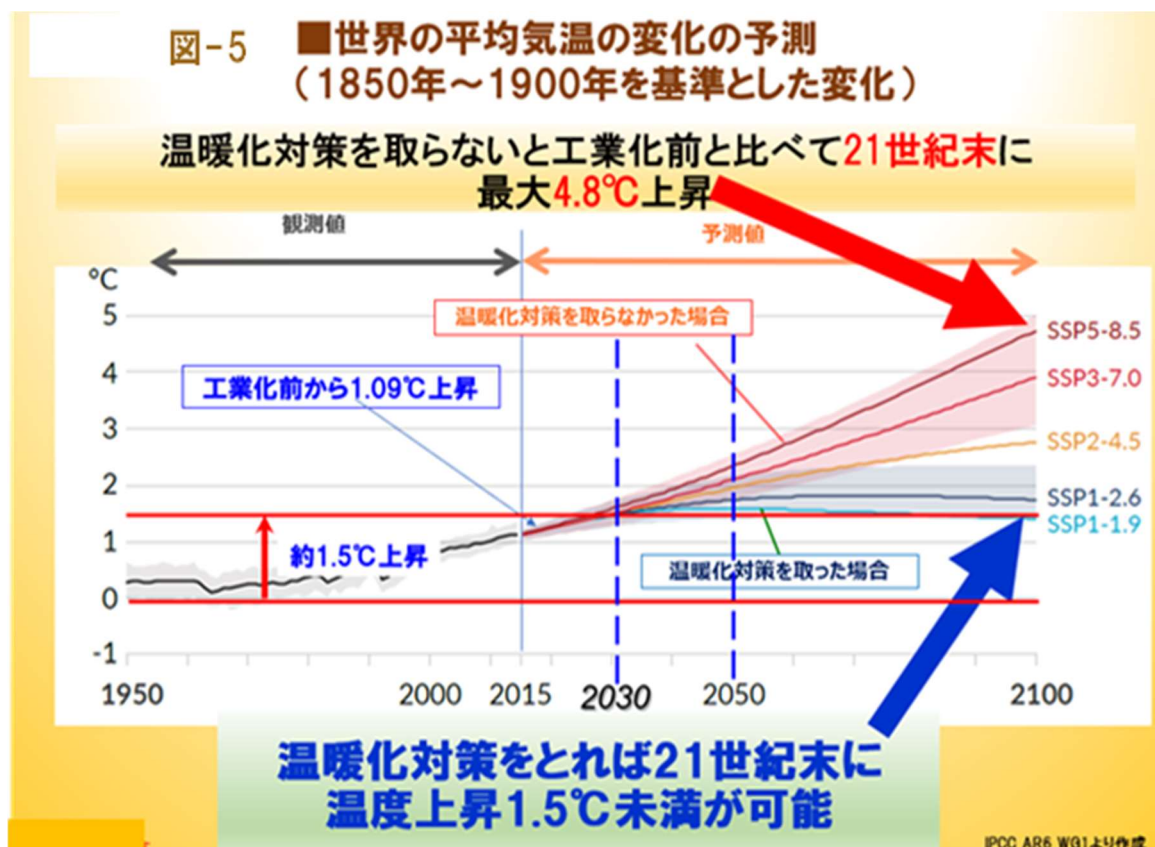
2019年と同じ量のCO₂排出が続くと、**2019+11年=2030年頃**には到達
対策が遅れると、**更に早まる可能性あり**

2019年の年間排出量は、
約0.045兆トン

1.5°C上昇をもたらす
CO₂総排出量
約2.9兆トン



出典：IPCC AR5 WG1 政策決定者向け要約、
WG3 政策決定者向け要約より試算



参考資料

IPCC6 次報告書

<http://www.env.go.jp/press/109850.html>

第1分科会

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg1/>

第2分科会

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg2/>

第3分科会

<https://www.ipcc.ch/report/ar6/wg3/>

統合報告書

<https://www.ipcc.ch/report/sixth-assessment-report-cycle/>

気象庁 世界の平均気温

https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/an_wld.html

気象庁/WMO 温室効果ガス年報 第17号

https://www.data.jma.go.jp/gmd/env/info/wdcgg/GHG_Bulletin-17_j.pdf

全国地球温暖化防止活動推進センターHP

<https://www.jccca.org/>

<https://www.jccca.org/oyakudachi/download-list>

環境省 地球温暖化防止コミュニケーター ガイドブック WG1、WG2、WG

https://ondankataisaku.env.go.jp/coolchoice/lets_coolchoice/logo_download/learning/

ずしし環境会議ニュース

2020年10月号、2021年10月号、2022年2月号、10月号、2023年2月号

<https://zushikankyo.jimdofree.com/かんきょうかいぎニュース/>

国連 「1.5℃の約束—今すぐ動こう気温上昇を止めるために。」

https://www.unic.or.jp/news_press/info/47272/

執筆者：二酸化炭素削減部会部会員 荒木